

1 主題名

「すがすがしい心」 【D 感動, 畏敬の念】

2 資料名

「しあわせの王子」(教育出版)

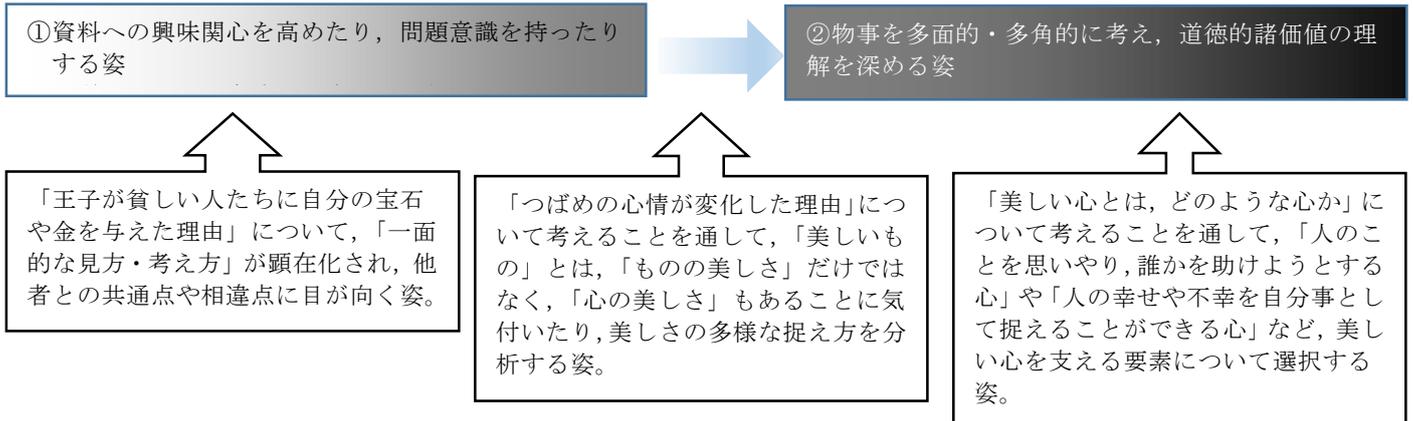
3 主題と資料について

からだを金箔や宝石に包まれて広場に立っている「しあわせの王子」は、貧しい病気の子にルビーを届けるようにつばめに頼む。さらに貧しい人や困っている人にサファイアや金箔を届けるように頼む。自分を犠牲にしてまで困っている人を助けようとする王子の美しい心に感動した一羽のつばめが、自分もその王子の力になろうと、王子の目となり足となって苦しんでいる人々を助けていく。そして、何の飾りもない銅像となった王子と、命を失ったつばめを、天使が包み、空へと上っていく。人が幸せになることが自分の幸せと考える王子と、その姿勢に共感するつばめの心の美しさに触れることで感動が生まれる資料である。

4 本時のねらい

資料の「王子が貧しい人たちに自分の宝石や金を与えた理由」や「つばめの心情が変化した理由」を考えることを通して、「人のことを思いやり、誰かを助けようとする心」や「人の幸せや不幸を自分事として捉えることができる心」などが、美しい心を支える要素の一つであることに気づき、美しいものや清らかなものに素直に感動するような心情を育てる。

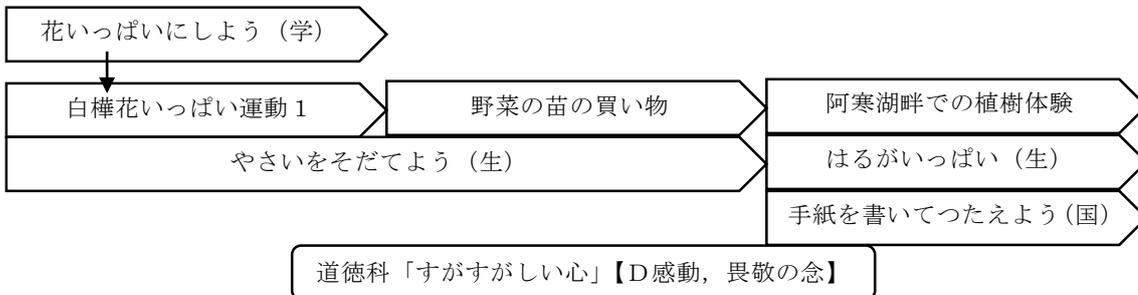
5 本時において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」



①は、「一面的な見方・考え方」を働かせる段階で、目指す姿である。また、ここで抱いた興味・関心・問題意識は、②の姿へとつながっていく。

②は、主として「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」を目指す姿である。これまで触れてきた道徳的価値の濃淡に差がある児童・生徒が、資料(読み物、映像等)という共通の疑似体験を通して、多様な価値観に触れながら、物事を多面的・多角的に考え、道徳的諸価値についての理解を深めていく。

6 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり



自然が織りなす美しい風景や人の心の奥深さ、清らかさを描いた文学作品などに触れて素直に感動する気持ちや、人の心の優しさや温かさなど気高いものや崇高なものに出会ったときの尊敬する気持ちなどを、児童の心の中により一層育てることが大切である。そのために、自然体験活動など、美しいものや気高いものなどに会う機会との関連を意識した。美しいもの、清らかなもの、気高いものに接したときの素直な感動を大切にしていきたい。

6 本時について

(1) 本時の目標

資料の「王子が貧しい人たちに自分の宝石や金を与えた理由」や「つばめの心情が変化した理由」を考えることを通して、「人のことを思いやり、誰かを助けようとする心」や「人の幸せや不幸を自分事として捉えることができる心」などが、美しい心を支える要素の一つであることに気付き、美しいものや清らかなものに素直に感動するような心情を育てる。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために（個の内面化）

「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」のうち、特に「多角的な見方・考え方」が高まった状態、すなわち何らかの選択・判断をしようとする「見方・考え方」が高まっている状況において、価値そのものを問う発問（美しい心とは、どのような心なのでしょう）をし、個の内面化へとつなげる。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導（▲）
<p>1 美しいものには、どんなものがあるのかについて、自分の経験を基に考える。</p> <p>・星 ・虹 ・宝石 ・景色 ・花 ・音楽 ・絵</p> <p>2 「しあわせの王子」の資料の読み聞かせを聞く。</p> <p>3 王子が、貧しい人たちに自分の宝石や金を与えた理由について考える。</p> <p>・困っている人を助けたいからだよ。 ・自分にできることをしてあげたいからだね。 ・自分だけ宝石や金を持っていて、申し訳ないから。 ・自分のことはどうなってもよいと考えているね。 ・自分のことより困っている人のことを大切にしているからだね。 ・でも、つばめのことを考えていないよ。 ・死ぬまでやらせることはおかしいよね。</p>	<p>【個の確立】 経験的思考を働かせ、美しいものには、どんなものがあるのかを考えさせる。導入における「テーマの提示」を行い、美しいものという概念の一面的な見方・考え方を発揮できるようにする。また、王子が、貧しい人たちに自分の宝石や金を与えた理由を考えさせることで、自分の立場・立ち位置を明確にさせる。</p> <p>【見方・考え方を働かせる】 □「王子が貧しい人たちに自分の宝石や金を与えた理由」について考えさせることで、「一面的な見方・考え方」が顕在化され、他者との共通点や相違点に目が向き、「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」へと高めていくことへと繋げていく。</p>	<p>【発言・道徳ノート】</p> <p>▲「美しさ」について考えながら読むことが難しいと判断した場合、「美しさ」に関わる場面で一度読み聞かせを止め、一問一答方式で状況確認を行う。</p>
<p>4 南の国へ帰りたかったにもかかわらず、王子のそばで暮らすことにしたつばめの心情が変化した理由について考える。</p> <p>・王子が優しい心の持ち主だからだよ。 ・王子のために頑張りたいという気持ちかな。 ・王子がかawaiiそうだと思うのかな。 ・王子が困るのを見ていられないからだよ。 ・王子は、目が見えなくなったから、自分が何とかしなくてはという気持ちだと思うよ。 ・王子の優しい気持ちを叶えたら、喜んでくれるかな。 ・自分の命がどうなってもよいと思っているのかな。 ・でも、南の国へ行かないとしないで、どうしようという気持ちはあったんじゃないかな。 ・それよりも、貧しい町の人を見過ごせないのでは。 ・自分より町の人のことを考え行動する王子はすごいと思ったんじゃないかな。</p>	<p>【見方・考え方を高める】 □つばめの心情が変化した理由について考えることを通して、「美しいもの」とは、「ものの美しさ」だけではなく、「心の美しさ」でもあることに気付いたり、美しさの多様な捉え方に触れたりすることで、「多角的な見方・考え方（生き方についての見方・考え方）」へと高めていくことができるようにする。以下、必要に応じて、児童に問い返す。 □王子は、美しいとは言えませんよね？（限定） □つばめは自分の命を失うかもしれませんね？（限定） □王子とつばめは幸せだったのでしょか？（役割取得） □いつでも、誰に対しても、美しい心をもって行動ができますか？（普遍性）</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせて考えるよう伝えたりする。</p> <p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせて考えるよう伝えたりする。</p>
<p>5 「美しい心」とは、どのような心なのかについて考える。</p> <p>・人のことを大切に思う心だよ。 ・人を助ける心だと思う。 ・人のために頑張る心だよ。 ・人の幸せを喜ぶ心かな。 ・人がつらいときに、そのつらさを考えられる心だね。</p>	<p>【個の内面化】 □価値そのものを問う発問（美しい心とは、どのような心なのでしょう）をし、「人のことを思いやり、誰かを助けようとする心」や「人の幸せや不幸を自分事として捉えることができる心」など、美しい心を支える要素について内面的思考を促す。I</p>	

